

## Vbus筐体のログ取得手順 R14

Vbusのログ取得方法は、下記の2種類の方法があります。

【■ 1 ■Vbus-Webserver機能が使える状態】

【■ 2 ■Vbus-Webserver機能が使えない状態】

お客様の使用環境にあった方の説明文を一読してから、ログファイルの取得作業を行って下さい。  
また、うまくいかない場合はトラブルシューティングを用意していますのでこちらもご確認下さい。

### ■2種類の方法のどちらかを確認する方法■

#### 【 I 】 Vbusの機種別の確認方法

下記に当てはまる筐体は【■ 1 ■Vbus-Webserver機能が使える状態】を参照して下さい。

- ・ Vbus-70V2筐体
- ・ Vbus-70V2 (C) 筐体で【Vbus-SNMP-08】を実装している時
- ・ Vbus-73V筐体で【Vbus-SNMP-09】を実装している時
- ・ Vbus-70C-03 (Webserverオプション) を購入しているVbus-70C筐体
- ・ Vbus-Webserver (Webserverオプション) を購入しているVbus筐体 (Vbus-70V/71C/71C-DC/73C/74HC/74HC-DC/74HC-AD)

下記に当てはまる筐体は【■ 2 ■Vbus-Webserver機能が使えない状態】を参照して下さい。

- ・ Vbus-70V2 (C) 筐体で【Vbus-ALARM-2U】又は、【Vbus-REF-2U】を実装している時
- ・ Vbus-73V筐体で【Vbus-ALARM-1U】又は、【Vbus-REF-1U】を実装している時
- ・ Vbus-70C-03 (Webserverオプション) を購入していないVbus-70C筐体
- ・ Vbus-Webserver (Webserverオプション) を購入していないVbus筐体 (Vbus-70V/71C/71C-DC/73C/74HC/74HC-DC/74HC-AD)
- ・ Vbus-Bシリーズとそれ以前の筐体全て

#### 【 II 】 Vbusにアクセスして確認する方法

- ①VbusにLAN接続できるWindowsPCを用意して下さい。
- ②PCのIPアドレスをVbusに接続できる値に設定して下さい。  
詳細は【■ 3 ■トラブルシューティングの【VI】：VbusとLANが繋がらない場合。】を参照して下さい。
- ③chromeブラウザを起動して、接続先VbusのIPアドレスを入力して接続して下さい。
- ④Vbus-Webserverログイン画面が表示されればVbus-Webserver機能が使える状態です。

下記の※必ず確認して下さい。※の3か所の内容を確認してから、

【■ 1 ■Vbus-Webserver機能が使える状態】に進んでください。

- ⑤アクティベーションコードを入力する画面やエラー表示される場合はVbus-Webserver機能が使えない状態で

す。

下記の**※必ず確認して下さい**。※の3か所の内容を確認してから、  
下記【**■ 2 ■Vbus-Webserver機能が使えない状態**】に進んでください。

**※必ず確認して下さい。※**

**■VbusにLAN接続するPCについて■**

Vbusのログを取得するのにLANで接続するPCが必要になります。

PCの時計が実時間とズレが無いか確認をお願いします。

PCの時計がズレている場合は実時間にPCの時計を合わせて下さい。

PCの時計が登録できない場合は、実時間とのズレがわかる様に記録してご連絡をお願い致します。 ▲

例：実時間 202X年X月X日 XX時XX分XX秒 の時の  
PC時計が 20XX年X月X日 XX時XX分XX秒 でした。

**※必ず確認して下さい。※**

**■■■ログファイルと一緒にご連絡して頂きたい情報■■■**

・不具合現象が発生した日時（日付、時分秒）

・Vbusの時計情報 ※下記の★の内容です。

→実時間とVbusの時計がズレている場合は、下記手順でログファイルと時計情報取得後に、下記**■ 4 ■Vbusの時計設定方法**を行って下さい。

・不具合現象の詳細情報を教えて下さい。

・現象発生後に復帰作業を行ってましたら、作業内容を教えて下さい。

・該当のVbusに実装している基板の情報を教えて下さい。（スロット1～10の実装基板の内容）

・現象発生した基板の下記情報を教えて下さい。

シリアル番号

入力している信号（映像種類、リファレンス種類）

使用している設定内容（動作モード、フォーマット設定、リファレンス設定）

※リファレンス設定がESUBの場合、リファレンス信号を分配している基板がリファレンス信号を受けているか確認をお願いします。

Vbusの場合、SNMPボード（電源ユニットの左に実装されている基板）にリファレンス信号を分配するスイッチがあるのでONになっているか確認してください。

リファレンス信号を分配する基板は1筐体に1つだけしか使えません。

TLG-70VC等のコントローラー基板は、実装するだけでリファレンス分配動作になる為、SNMPボード側の分配

スイッチはOFFにして下さい。



※必ず確認して下さい。※

▲を含む上記の内容（ご連絡して頂きたい情報）と、下記★の内容と、◆のログファイルの3点をメールに添付して送って下さい。

- ◆ログファイルは複数ファイル有る場合は全て添付して下さい。
- 下記作業でPCのIPアドレスを変更していたら元の設定に戻して下さい。●

- 1 ■ Vbus-Webserver機能が使える状態
- 2 ■ Vbus-Webserver機能が使えない状態
- 3 ■ トラブルシューティング
- 4 ■ Vbusの時計設定方法

■ 1 ■ Vbus-Webserver機能が使える状態

① VbusとLAN通信が出来る環境を用意して下さい。

② Webserver対応ブラウザを起動して下さい。

対応ブラウザは下記になります。（2022/5/31時点）

PC環境のブラウザです。

・ Chrome（推奨）

※JavaScript機能は必ず「有効」に設定して下さい。

③ ブラウザのURL入力欄にログを取得したい対象VbusのIPアドレスを入力して下さい。

Vbusの工場出荷時設定のIPアドレスは【192.168.1.1】です。

※つながらない場合は下記【VI】を試して下さい。

④ アクティベーションコードを入力する画面が表示される場合は、Vbus-70C-03/Vbus-Webserver（Webserverオプション）をご購入下さい。

購入済みの場合、付属品でお送りしている「ソフトウェア使用契約書」にアクティベーションコードを記載しております。

アクティベーションコードを入力して下さい。（4桁×8ブロックの32文字の英数字です。）

【XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX】

アクティベーションコードはSNMPボード毎に個別のコードが割り当てられています。

対象のSNMPボードのバーコード番号と「ソフトウェア使用契約書」に記載されている【バーコードNo:】が一致する「ソフトウェア使用契約書」に記載されているアクティベーションコードを入力して下さい。

⑤【USER LOGIN】画面が表示されたら【PASSWORD】を入力して下さい。

【USER ID】は【管理者】又は、【運用者】を選択して下さい。

【PASSWORD】は工場出荷時設定の場合【VBUS】です。

既に使用しており、お客様でパスワードを変更している場合は変更後のパスワードを入力して下さい。

※お客様で設定したパスワードを忘れてしまった場合は調べる事が出来ません。

忘れてしまった場合は、SNMPボードのDIPSWを操作して工場出荷時設定に戻して下さい。

（No:6をONで起動して下さい。SNMPボードが起動が完了したら、SNMPボードを抜いて必ずDIPSWのNo:6をOFFにして運用して下さい。）

工場出荷時設定に戻すと、今まで設定されていたIPアドレスや設定が初期化されますので再設定が必要となります。

⑥ログインに成功するとWebserverのトップ画面が表示されます。

⑦画面右側にある【FRAME】欄を選択して下さい。

【FRAME】欄は「SNMP/FAN/LAN/REFERENCE/POWER1/POWER2」がまとまっており、1つのボタンとして認識します。

⑧【FRAME】欄を選択すると「SETTING/LOG/TRAP」メニューが表示されます。

【LOG】メニューを選択して下さい。

⑨ログファイルをダウンロードして下さい。

LOGメニュー内の【ダウンロード】ボタンを押してファイルをダウンロードします。

ファイルの保存先は使用しているブラウザで確認して下さい。

vbus-00\_log1\_2017-7-11\_11-46-11.txt等のファイル名で保存されます。

【ダウンロード】ボタンの左側にある【>】ボタンを押してページを移動して下さい。

移動後にログデータが表示される場合は再度【ダウンロード】ボタンを押してファイルをダウンロードします。

◆ログデータが表示されなくなるまで【ページの移動】と【ダウンロード】を繰り返します。

⑩画面右上にある【SYSTEM】欄を選択して下さい。

⑪画面左側にある【時計設定】欄を選択して下さい。

画面を表示した直後の画面をキャプチャして下さい。（キーボードのPrintScreenボタンを押すとキャプチャさ

れます。)

【時計設定】欄を選択すると画面が更新されます。

★キャプチャしたデータをペイントソフト等に貼りつけてファイルに保存して下さい。

★キャプチャがうまくいかない場合は【現在日付】、【現在時刻】、【PC日付】、【PC時刻】値を控えてテキストデータで記録して頂いても大丈夫です。

上記★の内容と◆のファイルの2点をメールに添付して送って下さい。

◆ログファイルは複数ファイル有る場合は全て添付して下さい。

## ■ 2 ■ Vbus-Webserver機能が使えない状態

まずはログファイルの生成を行います。

① VbusとLAN通信が出来る環境を用意して下さい。

② 通信するPCでTELNETが使えるように設定して下さい。

※使用するOSによってはTELNET機能が無効設定になっています。

コントロールパネルの「プログラムと機能」から「Windowsの機能の有効化または無効化」を選択して「TELNETクライアント」にチェックを入れてOKを押して下さい。

③ コマンドプロンプトを起動して下さい。

コマンドプロンプトはOSのVerによってコマンドプロンプトのメニューの場所が変わります。

Windows7はスタートメニュー→アクセサリフォルダ内

Windows10はスタートメニュー→Windowsシステムツールフォルダ内

Windows8はデスクトップ画面のWindowsボタンを右クリックするとコマンドプロンプトのメニューが表示されま

す。

④ VbusとTELNETで接続します。

コマンドプロンプト内で「telnet 192.168.1.1」と入力してVbusと接続します。

※上記IPアドレスは工場出荷時設定なので、IPアドレスを変更されている場合は変更後のIPアドレスを入力して下さい。

※つながらない場合は下記【VI】を試して下さい。

【VI】実行後、一度コマンドプロンプトを終了して再度、上記③からやり直して下さい。

⑤ 「login:」と表示されたら「user」と入力して下さい。

⑥ 「password:」と表示されたら「12345」と入力して下さい。

- ⑦ 「user : 」と表示されたらTELNETのログイン完了です。
- ⑧ ログイン状態で「lf」と入力して下さい。  
「lf」コマンドでログファイルの生成を行います。  
Vbus-70Bの場合  
・ snm vb0. dat / snm vb1. dat / snm vb2. dat  
等のファイルが生成されます。  
ログのデータサイズによって最大3つのファイルが生成されます。  
Vbus-70Cの場合 基板の種類やVerの違いによってファイル名が異なります。  
・ snm vb0. dat / snm vb1. dat / snm vb2. dat  
・ snm vc. log / snm vc\_0. log  
・ snm vlog0. dat / snm vlog1. dat / snm vlog2. dat  
等のファイルが生成されます。  
その他筐体の場合  
・ snm vlog0. dat / snm vlog1. dat / snm vlog2. dat  
ログのデータサイズによって2~3個のファイルが生成されます。  
生成したファイル名の確認は次の⑨で行います。
- ⑨ ログファイルの生成が出来たか確認します。  
「dir」と入力してください。⑧で生成したファイル名が表示されるか確認してください。
- ⑩ Vbusの内部時計と、実時間がズレている可能性が有る為、Vbusの内部時計と実時間を調べて下さい。  
Vbusの内部時計がズレていると、ログデータの時計情報もズレて記録される為、時間差を調べて実際の時間を推測する必要があります。  
実時間はPCの時計（時分秒）で確認します。※PCの時計が実時間とズレが無いか確認しておいて下さい。  
Vbusの内部時計は下記コマンドで確認します。  
★ 「rd」と入力して下さい。年月日が表示されます。データを控えて置いて下さい。  
★ 「rt」と入力して下さい。時分秒が表示されます。データを控えて置いて下さい。  
★ 「rd」「rt」を実行した際のPCの時計情報（年月日、時分秒）を控えて下さい。
- ⑪ Ver情報を調べて下さい。  
★ 「ver」と入力して下さい。Ver情報が表示されます。データを控えて置いて下さい。
- ⑫ 「bye」と入力してTELNETを終了します。

上記★の内容をメールに添付して送って下さい。

ログファイルの取得を行います。

コマンドプロンプトを使用してFTPのダウンロードを行います。

① コマンドプロンプトを起動して下さい。

② Cドライブに移動して下さい。

コマンドプロンプト内で「CD C:¥」と入力してCドライブに移動して下さい。

※アクセス権限などで問題がある場合は移動しないで大丈夫です。

一度ダウンロードを試してうまくいかない場合は下記【Ⅰ】を試して下さい。

③ VbusとFTPで接続します。

コマンドプロンプト内で「ftp 192.168.1.1」と入力してVbusと接続します。

※上記IPアドレスは工場出荷時設定なので、IPアドレスを変更されている場合は変更後のIPアドレスを入力して下さい。

④ 「user…」と表示されたら「ADMIN」と大文字で入力して下さい。

⑤ 「Password:」と表示されたら「VBUS」と大文字で入力して下さい。

⑥ 「dir」と入力して下さい。ファイル一覧が表示されます。

※もし、ファイル一覧が表示されない場合は下記のコマンドを実行して下さい。

「pwd」と入力して実行して下さい。現在のディレクトリを確認します

「cd a:¥」と入力して下さい。(Aドライブに移動します。)

再度、「dir」コマンドを実行してファイル一覧が表示されるか確認して下さい。

うまくいかない場合は下記【Ⅱ】を試して下さい。

⑦ 「get」コマンドを使用してダウンロードします。

上記⑥で表示されたログファイルをダウンロードします。

◆例「get snmv\*\*.\*\*\*」と入力してログファイルをダウンロードします。

◆※ファイル名は上記⑥で表示されたファイル名を入力してください。

◆※上記⑥のファイルが複数ある場合は、ファイル名を変更して全てダウンロードを行って下さい。

⑧ ログファイルのダウンロードが終了したら「bye」と入力してFTPを終了します。

⑨ ダウンロード先は②でCドライブに移動した場合は「C:¥」になります。

移動していない場合は、コマンドプロンプト上に表示されているパスになります。

うまくいかない場合は下記【Ⅲ】を試して下さい。

上記◆のファイルをメールに添付して送って下さい。

◆ログファイルは複数ファイル有る場合は全て添付して下さい。

### ■ 3 ■ トラブルシューティング

【Ⅰ】：ファイルダウンロードが出来ない時の対応方法

原因：下記の原因が考えられます。

1. PC側のセキュリティソフトが弾いている。  
→セキュリティソフトを解除して試して下さい。
2. ファイアウォールが弾いている。  
→ファイアウォールを一時的に無効にして下さい。
3. PC側の保存先のパスがCドライブ直下である。  
→ファイルアクセスの権限などによってCドライブ直下に保存が出来ない時があります。  
コマンドプロンプト上でFTPからVbusにログインする前に、現在のパスをデスクトップ等に移動して

下さい。

コマンドプロンプト上で【cd \*\*\*\*】 ←\*\*\*\*の部分に新しいフォルダ【test】等を生成して、その【test】フォルダのパスを入れて実行します。

生成したフォルダのアドレスを確認する方法

フォルダを右クリックしてプロパティを選択します。

プロパティ内の場所に表示される内容をコピーして下さい。

上記\*\*\*\*の部分に貼り付けて実行します。

例【cd C:¥test¥】

フォルダのドライブがC以外の場合は下記コマンドを使用して下さい。

例【cd/d D:¥test¥】

4. コマンドプロンプトを一度終了し、コマンドプロンプトを【管理者として実行】で起動して下さい。  
→管理者として起動したコマンドプロンプトでファイルダウンロードをお試して下さい。

【Ⅱ】：FTPログイン後、TELNETで生成したファイルが見つからない場合

原因：カレントドライブが【a】ドライブ以外を参照している事が考えられます。

Vbusのログファイルは【a】ドライブに保存されます。

対応：現在表示している場所を確認したい時は【pwd】を実行して下さい。

表示されたパスが【a】ドライブ以外の時は下記を実行して移動します。

【cd a:】を実行すると、【a】ドライブに移動する事が出来ます。

【pwd】を実行する事で移動したか確認が出来ます。

ドライブ移動後に、【dir】を実行してログファイルを確認して下さい。

【Ⅲ】：ファイルのダウンロード先がわからない



FTPでダウンロードしたファイルはコマンドプロンプトで表示されているパスに保存されます。  
FTPをログアウト【bye】して頂き、コマンドプロンプト上に表示されるパスを確認して下さい。  
パスが表示されない時は【dir】コマンドを実行すると現在のフォルダ内のファイルが表示されます。  
この時に一番最初に現在のフォルダのパスが表示されます。

【IV】：FTPログイン後、「接続がリモート ホストによって閉じられました」とメッセージが表示される。  
原因：FTPでログイン後、コマンド実行までの時間が30秒を超えると、タイムアウトを起こしてFTP接続が切断されます。  
対応：上記メッセージが表示された場合は、1度接続を終了してから、再度FTPログインからやり直して下さい。

【V】：PINGは通るが、FTP又はTELNETでログインできない。  
原因：通信プロトコルのサービスが停止している可能性があります。  
対応：SNMPボードの再起動を試して下さい。  
再起動の方法は4種類あります。  
1. 筐体電源をOFF→ONする。  
※70基板の出力に影響が出ます。  
2. SNMPボードを抜き差しする。  
※REF分配を使用している場合は70基板の出力に影響が出ます。  
3. TELNETでログインして【reset】コマンドを実行します。  
※TELNETでログインが出来ない場合は他の方法を試して下さい。  
70基板の出力に影響が出ません。  
4. SNMPボードのRESETスイッチを長押し（2秒以上）してボタンを離します。  
※70基板の出力に影響が出ません。

【VI】：VbusとLANが繋がらない場合。  
原因：LANで通信できる設定になっていない。  
対応：IPアドレスを変更する。  
※繋がらない場合はVbusのIPアドレスとPCのIPアドレスが通信できる状態になっているか確認して下さい。  
PCのIPアドレスの設定が自動取得もしくは下記のようにずれていると接続できません。  
例：繋がらない  
Vbus : 「192.168.1.1」  
PC : 「192.168.10.25」

例：つながる

Vbus：「192.168.1.1」

PC：「192.168.1.25」

PCのIPアドレスの変更方法

1. コントロールパネルのネットワークと共有センターを選択します。
2. アクティブなネットワークの表示から「ローカルエリア接続」を選択します。
3. ダイアログが表示されるので「プロパティ」ボタンを選択します。
4. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログが表示されます。  
表示されるリスト内から「インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）」を選択して「プロパティ」ボタンを押します。  
● 下記5. で設定を変更する前に現在の設定内容を控えて置いて下さい。（作業終了後に元に戻して下さい。）
5. TCP/IPv4プロパティダイアログが表示されます。全般タブの「次のIPアドレスを使う」を選択して下さい。
6. IPアドレスをVbusと通信が出来る値に変更して下さい。
7. IPアドレス入力後サブネットマスクにカーソルを入れて下さい。自動で値が入力されます。  
サブネットマスク「255.255.255.0」
8. 表示されたダイアログを「OK」ボタンを押して設定を反映して閉じて下さい。

#### ■ 4 ■ Vbusの時計設定方法

##### ・ 4-1 Vbus-Webserver機能が使える状態

- ① 上記■ 1 ■の①～⑥まで進んでください。
  - ② 画面右上にある【SYSTEM】欄を選択して下さい。
  - ③ 画面左側にある【時計設定】欄を選択して下さい。
  - ④ 【PC日時で設定】ボタンを押すとPCの時計情報をVbusに登録することができます。
- ※SG-70V、SMS-70V等のログ機能がある機種が実装されている場合は、NTPサーバー有効を有効にして頂き、時刻同期スロットをONにする事で、該当の70基板の時計を同期する事ができます。
- ※NTPサーバーの設定を行えばVbusの時計がNTPサーバーと同期することができます。  
設定の詳細についてはVbus-Webserver取扱説明書の時計設定を参照してください。

・ 4-2 Vbus-Webserver機能が使えない状態

①上記■ 2 ■のログファイル生成側の①～⑦まで進んでください。

②wdコマンドを実行して、日付登録を行います。

例：2019年12月27日の登録を行いたい場合

「wd 2019 12 27」と入力して実行して下さい。

登録完了後の確認は、「rd」と入力して実行すると現在の日付情報が表示されます。

③wtコマンドを実行して、時間登録を行います。

例：12時34分56秒の登録を行いたい場合

「wd 12 34 56」と入力して実行して下さい。

登録完了後の確認は、「rt」と入力して実行すると現在の時間情報が表示されます。

※SG-70V、SMS-70V等のログ機能がある機種が実装されている場合は、  
NTPサーバー有効を有効にして頂き、時刻同期スロットをONにする事で、  
該当の70基板の時計を同期する事ができます。

各Vbus取扱説明書の時刻構成機能、【tmsync】、【tmsyncsl】を参照してください。

※NTPサーバーの設定を行えばVbusの時計がNTPサーバーと同期することができます。

設定の詳細については各Vbus取扱説明書の時計設定を参照してください。

各Vbus取扱説明書の時刻構成機能、【tmsync】、【synctm】、【setdns】、【tmsrvnm】を参照してください。